

シロイチモジヨトウ

○ 被害と発生生態

山口県では年間5～6回発生する。老齢幼虫～蛹で越冬し、4月以降に羽化し、8月～10月に発生が多くなる。幼虫は広食性で、ネギのほか、キャベツ、ホウレンソウ、アスパラガス、カーネーション、キクなどを加害する。ネギでは葉身内に潜入して内側から食害し、大きな孔を開ける。

卵は数十～数百の卵塊で、葉裏に産みつけられ、表面は灰白色～黄白色の鱗毛で覆われる。幼虫の体色は、1齢期には淡緑色であるが、2齢期以降は淡緑色から黒色に近いものまで個体変異が多くなる。幼虫の胴部側面に明瞭な白線が見られる。気門の周辺に白色またはピンク色の半月状の斑紋がある。老齢幼虫の体長は30mmになり、土中で蛹化する。成虫は体長約12mm、開張約28mmの灰褐色の蛾である。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・施設では、開口部に防虫ネット（目合い4mm）を設置する。
- ・露地栽培では、ベタがけシートや防虫ネット（目合い2mm以下）で作物を被覆する。
- ・黄色蛍光灯等を周夜点灯し、飛来及び産卵を防止する。
- ・若齢幼虫が集団で生息している白変葉や卵塊は見つけ次第除去する。

(イ) 薬剤防除

- ・幼虫は齢期が進むと感受性が低下して防除が困難となるので、若齢幼虫期に防除する。
- ・各種薬剤に抵抗性が発達しているため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。



シロイチモジヨトウ若齢幼虫 シロイチモジヨトウ成虫



ネギの被害



シロイチモジヨトウ老齢幼虫
(カーネーション)